



普及協会創立70周年総会・講演会報告

4月22日、(一社)林産技術普及協会の創立70周年にあたる総会、講演会を開催しました。会には、北海道水産林務部の寺田林務局長、北海道立北の森づくり専門学院の土屋学院長を始め7名のご来賓にご出席いただくとともに、90名を超える皆さまに講演をご聴講いただきました。ここでは、高橋会長による開会挨拶、道総研林産試験場川西場長によるご挨拶、および講演タイトル・発表者を掲載しました。



高橋会長開会挨拶（抜粋）



会員の皆さま、そしてご来賓の皆さまにおかれましては、年度初めのお忙しい中、会場まで足をはこんでいただき、たいへんありがとうございます。

さて、当協会は、1950年8月に設立された北海道立林業指導所と木材業界をつなぐ役割を担うことを目的として、林産工業会の有志によって1953年8月に設立され、昨年2023年に70周年を迎えました。当初、協会は任意団体でしたが、1961年、組織の基盤を強め、自主的、公益的な活動を積極的に進めるため社団法人となりました。

発足当初、協会会長は北海道立林業指導所の柳下所長が担われていましたが、2年後の1955年、協会の自主運営を図る目的から、松岡木材（株）の真弓社長にバトンタッチし、以後、木材業界出身の6名の会長が普及協会設立の理念を受け継ぎ、活動を進めてまいりました。私は8代目の会長として2013年に就任いたしました。

この70年間、協会では、講演会や見学会、展示会の開催、ログハウスや木材乾燥をはじめとするさまざまな技術資料の発行、防腐・防虫木材の分析、カラマツ、トドマツの利用に関する調査事業など、その時代の要請に対応する多様な事業を実施してきました。また、協会設立と同時に発行を始めた「木材の研究と普及」、現在の「ウッディエイジ」は、70年間1度も欠けることなく、この4月で848号となりました。さらに、設立から半世紀を経た50周年、還暦を迎えた60周年には、記念誌『50年のあゆみ』、記念DVD『森林（もり）の国に生きる』をそれぞれ刊行し、普及協会の50年間、60年間の歩みを振り返るとともに、新たな歩みの糧（かて）としてきました。

今回の70周年に当たっては、二つの事業を実施しました。一つは北海道立北の森づくり専門学院を通じた若き人材の育成支援、もう一つは道産木材の活用を進めるための調査研究の林産試験場への委託で、どちらも、それぞれ100万円の経費を計上しました。具体的には、北海道立北の森づくり専門学院には、国産材70樹種の木材見本と生徒たちの活動経費を寄贈しました。活動経費は国内外での研修に活用される、と聞いております。林産試験場には「道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質評価」という課題を依頼し、その成果は、「北海道産広葉樹のこれまでとこれから」と題する講演会で披露いただくとともに、ウッディエイジ誌上で公表されます。

毎年、ウッディエイジ1月号の新年挨拶に書いていることですが、これからも協会は林産試験場と企業の架け橋として、木材加工技術の向上とその普及に向けた活動を進めてまいります。皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申しあげ、70周年という節目にあたる総会に際しての挨拶といたします。